



発行 福島東高等学校同窓会  
 住所 福島市浜田町12-21  
 (024) 531-1551  
 発行人 尾形幸男 男  
 編集 福島東高等学校同窓会事務局  
 印刷 吾妻印刷

# 創刊の辞

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸男



「遙かな未来へ」これは今年度の東高等学校校内のタイトルです。まさに、創立から二十四年が経ち、これからの東高を象徴している言葉だと思えます。本校は新しい構想に基づいた県内のモデル校として、昭和五十五年一学年普通科六学級の男子校として開校しました。また、平成七年度からは男女共学となり、本校の新しい歴史を刻んでいます。本校は開校当初から「文武両道」を掲げ、先生方と

生徒が一体となって現在では県内でも有数の実践校として認知されるまでになりました。平成十五年度の部活動加入率は全学年平均で八四％あり、特にサッカー部の全国的な活躍は皆さんもご存知のことと思います。また、運動部だけでなく、合唱部は県大会で金賞を獲得したり、吹奏楽部も毎年上位入賞を狙えるという状況です。さらに現役大学進学率においては平成十三年度は七七・六％、平成十四年度は七〇・三％、平成十五年度は七五・一％と見事に「文武両道」を実践しているのです。地理的な環境にも恵まれ、各関係機関や地域の方々から温かく見守られてここまで成長することができました。

このような東高の状況の中で、私が個人的にうれしいのは現在も校内マラソン大会が開催されており、男子は十km、女子は七kmで健脚を競っているということです。県内各高校でも交通事情や健康問題等で校内マラソン大会が消滅していく中、これだけの距離を毎年走り続けているのが後輩たちを誇りに思います。(勿論、大会を運営して下さる先生方のご苦勞には感謝です)この経験は一生、東高校のよき思い出として残ることは間違いないでしょう。そしてもう一つは「東桜祭」に対する生徒の熱意です。三年に一度の公開は創立からの伝統ですが、前回も拝見させていただき、私でさえも高校時代にタイムスリップしてしまいそうでした。つまり、一つの大きな行事に掛ける生徒たちの情熱はあの頃と全く変わっていないということ。女子が入り新しい風を運び、伝統を重ねている現在でも我々と同じスピリットを持ち、日々精進し

ている後輩がいるということに、心から喜びを感じるのです。さて、同窓会活動ですが、現在までの卒業生は七、五六四名(平成十五年卒業生まで)に達しており、すでに一期生は四十歳を超え、各分野の中堅として活躍しています。会員の皆様方にはサッカー全国大会へ向けての趣意金等、ご協力をいただき誠にありがとうございます。やはり、後輩から勇気と感動を与えてもらっていますので、同窓会といたしましても更なる向上を図らなければならぬと考えております。そのために、来年開催予定の同窓会総会では、同窓会規約を含めいくつかの事業案を提出させていただきたいと思っております。その一環として、今回、同窓会会報を年一回作成し、現在の東高校、先生方の様子、同窓会会員の動向、同窓会活動の紹介等を会員の皆様にお伝えすることによって、まずは、同窓会をもっと身近に感じてもらいたいと考えました。

今回の創刊にあたりましては、各関係各位から多大なるご協力をいただいております。これも、東高と同窓会の更なる発展に期待をいただいているものと真摯に受け止め、同窓会員がひとつになり活動を盛り上げていきたいと思っております。今後とも、同窓会活動に対し、積極的に参加して下さるようお願いいたします。尚、会報作成にあたっては、東高同窓生の教員が現在東高に勤務しておりますので、その先生方のご協力によって進めさせていただきます。

最後になりますが、平成十六年春の叙勲で本校開校の為にご尽力をいただいた三浦賢一先生が多年にわたる本県高等学校教育発展へのご功績が認められ、瑞宝小綬章の栄に浴されました。誠にありがとうございます。同慶の至りに存じます。先生は本校校長を最後にご退職され、その後、伊達町教育長・福島家庭裁判所調停委員など、現在も幅広く地域の振興・教育文化の発展に尽力しておられます。私たちも恩師に負けないよう頑張らなければならないことを肝に銘じ、創刊の辞といたします。



# はげしい心うつくくせよ 青春時代

福島東高等学校長 深澤陽一



同窓生の皆様にはご健勝で活躍のことと思います。四月に二十五期生が入学いたしました。早いもので、本校は創立以来四半世紀、二十五年を迎えることになりました。十五年間が男子校、十年間が男女共学校ということになります。

今年三月の二十二期生の卒業によって、あわせて七九二三名の同窓生を数えることになりました。これまで同窓会では、さまざまに事業をしてきましたが、今回初めての同窓会報が発行され、皆様に母校のいろいろな様子をお知らせできることになりました。私は創立の二年目から四年間本校におり、三期生を担任しました。昨年四月、久しぶりに本校に戻って、生徒たちが、東高が、着実に成長してきている姿を見て、大変うれしく思っています。振り返ってみますと、二十五年間変わらず、本校の中心テー

マは文武両道であったように思います。どのように自分の中で、部活動と勉強を両立させて努力できるか。恐らく、本校に学ぶ多くの生徒の解決すべき中心課題であったと思います。

現在、各学年八クラス、生徒数九五六名になります。一年生男六五%、女三五%、二年生男六三%、女三七%、三年生男五七%、女四三%の割合です。男女共学が安定していたこと五年ぐらいいは、三年生の割合に示すように、男六〇%弱、女四〇%強程度で推移していました。現在は、男子の割合が年々高くなる傾向にあります。この背景としては、福高、橋高(旧福女)が昨年より男女共学になり、福高、橋高、東高の三校が、同じ共学の進学校として、特色づくりに、進学実績づくりに競争しているということがあります。進学実績では、大健闘をしています。国公立現役大学合格者数(延べ数)は、平成十五年度は一六五名(県第一位)、平成十六年度は一五三名(県第二位)と実績を残しています。本校の

伝統である、現役大学合格が今もそのままです。そして、素晴らしいのは、大部分の生徒がぎりぎりまで部活動をしてきたということだと思います。このことが、本校の力の源になっているのです。

五月一日の調査では、文武両道の実現を目指して、全生徒の八五%が部活動に加入しています。運動部六三%、文化部二二%です。特徴としては、特に男子の運動部加入率が高いことがあげられます。一学年で見ると、男八六%女三九%が運動部、男一〇%、女五六%が文化部に所属しています。一年男子の八六%が運動部であるという事実は驚異的なものです。本校で生活をしてみると、声一つ聞こえない授業時間中と、放課後の部活動の歓声の大きさ、この差に驚くばかりです。高校生を悪し様に言う人も多いこの頃ですが、本校生の、真摯に部活動と勉強の両立を図ろうとしている姿を見ると、本校創設の理念が今大きく花開いていると思います。東高はいい学校になったなとしみじみと感じています。大学合格実績や、部活動の活躍状況は別稿に譲りますので、十分にご覧いただきたいと思えます。

昨年の十二月末、サッカー部が二年連続で全国高校サッカー

選手権に出場しました。今回は残念ながら二回戦で敗退しましたが、東京と横浜での試合で、懐かしい人に会いました。それは三期生で、私のクラスだった大井君と丹治君でした。二人とも茨城から応援に駆けつけていたのです。卒業以来十九年ぶりに出会っての話の中で、同窓生の皆さんが、今回のサッカーの全国大会での活躍をどれほど喜んでいたら、このことを通して、

東高の卒業生であることを誇りに感じたかを聞き、生徒たちの活躍を、こんなにも同窓生が喜んでくれるのだと知りました。多くの皆様に、「ご支援をいただいたことを心より感謝しています。一月にラジオ福島で、高校」とに同窓生にメッセージを送るという番組がありました。二期生の大槻君がインタビューに來ましたので、次のようなことを言いました。同窓生の皆さんは、この不景気の時代に大変な思いをして生きているのだらうと思えます。不透明な先の見えない時代だからこそ、正しく生きてほしいと思います。校歌の三番を覚えていますが、「はげしい心うつくくせよ 青春時代」高校生時代の、前向きな気持ちを感じだして、美しく生きていたきたいと思っています。いろいろ

な機会に、同窓生の皆さんとお会いできることを願っています。

## 同窓会の活動について

我が母校である福島県立福島東高等学校は、今年で創立二十五周年を迎えました。この節目を機に、今後、本会では次の活動に取り組んで行くことが六月に行われた理事会で決定されたことを報告します。

第一に、「同窓会会報」の発行です。その目的は、東高の様子、同窓生の活躍の様子などを伝えることです。現在の在校生は創立以来の「文武両道」を実践し、勉強に、部活動に一生懸命に取り組んでいます。また、各界での同窓生の活躍は目覚ましいものがあります。

第二に、「同窓会名簿」の整備です。現在の会員数は約七、九〇〇名ですが、現在の名簿では約九〇〇名の宛先不明者がいます。また、卒業時の住所になっているため、転送などで保護者に迷惑をおかしています。この名簿が不備では、円滑な同窓会活動を行うことができません。そこで、実態に即した名簿を作成したいと考えています。なお、この名簿は刊行せず、事務局が管理をし、その運用については

### 福島県立福島東高等学校同窓会規約改正案

[名称および事務局]

第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1. 総会の開催
- 2. 会員名簿・会報の発行
- 3. 母校の後援
- 4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会員]

第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役員]

第5条 本会に次の役員をおく。

- 1. 会長 1名
- 2. 副会長 4名
- 3. 理事 若干名
- 4. 監事 3名
- 5. 幹事 若干名

第6条 役員の出選は次のとおりとする。

- 1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
- 2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
- 3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員の仕事は次のとおりとする。

- 1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
- 2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
- 3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
- 4. 監事は会計を監査する。
- 5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。

第8条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]

第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が囑し、会長の諮問に応ずる。

[総会]

第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めるときは臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。

- 1. 事業報告並びに決算の承認
- 2. 事業計画並びに予算の承認
- 3. 役員選出
- 4. 規約の改廃
- 5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数をもって決定する。

第13条 総会はその権限の一部を理事会に委任することができる。

[理事会]

第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。

第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]

第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。

第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会計]

第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。

第21条 年度会計決算並びに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。

この規約は平成 年 月 日から改正する。

太字が改正箇所

### 平成15年度 福島県立福島東高等学校同窓会 収入支出決算書

収入額 2,467,995円  
 支出額 1,340,612円  
 残 額 1,127,383円

単位：円

#### 1. 収入

科 目	当初見込額	決 算 額	増 減	備 考
入 会 金	720,000	718,000	△ 2,000	2,000円×359人
会 費	1,080,000	1,077,000	△ 3,000	3,000円×359人
前年度繰越金	666,494	666,494	0	
雑 収 入	10,000	6,501	△ 3,499	預金利息
合 計	2,476,494	2,467,995	△ 8,499	

#### 2. 支出

単位：円

科 目	当初予算額	決 算 額	残 額	備 考
需 要 費	350,000	176,777	173,223	丸筒 旅費等
役 務 費	250,000	163,835	86,165	広告 通信費
慶 弔 費	0	0	0	12年度よりカット
予 備 費	376,494	0	376,494	
積 立 金	1,500,000	0	1,500,000	同窓会基金
特別協賛費	0	1,000,000	△ 1,000,000	サッカー全国大会
合 計	2,476,494	1,340,612	1,127,383	

「サッカー全国大会」の同窓会からの協賛として今年度分の「積立金」を「特別協賛金」として項目をたて充当しました。

平成16年度予算案については、理事会（11月）で承認の後、総会に提示します。

今後検討していきます。  
 第三に、「同窓会規約」の改正です。現行の「規約」を現状に合わせた形にするために、若干の改正をしたいと考えています。また、副会長、監事の定数を増員したいと考えております。  
 第四に、総会の開催です。本会には懸案事項がいくつもありま

【同窓会名簿の作成について】  
 十月十九日に本校一年生を対  
 のよつに行っていくのか、創立三十周年記念事業をどうするのか、同窓会積立金(約一、七〇〇万円)の運用をどうするのか、「同窓会名簿」の運用についてなどで、これらを審議するために来年二月に総会を開催する予定です。

象に進路講座を実施します。様々な職業の講師に各人の仕事について話をしていたたく企画です。そこに三名の同窓生が講師として招かれる予定です。今後、本校のこうした教育活動に本会が協力していくためにもご協力をお願いいたします。

（目的）  
 福島東高の教育活動を同窓  
 会が主体的に支援するため。福島東高の要請に同窓会が対応できるようにするため。  
 （名簿の内容）  
 現在の住所（連絡先）  
 現在の職業  
 （職種・仕事内容など）  
 在籍時の所属部活動  
 （作成の方法）  
 同封のハガキに必要事項を

ご記入の上、十一月十三日(土)までに投函してください。  
 事務局がまとめ、担任の先生方の協力をいただき、不備な点を補います。  
 の作業を数年継続して完成させます。  
 ＊完成した名簿は刊行せず、事務局が管理をします。



# 進路

## 現在の東高(進路状況)

野中 幹夫

年度別現役合格者延べ人数の表を見るとわかるとは思いますが一八期以降、一五〇人前後の合格者を出すようになりました。また、二二期、二二期は特に国立大学希望が多く、私立大学の受験者数が減少し、合格者数も減少しました。最近の経済情

勢が関係しているものと思えます。この傾向は、しばらく続くものと思われま

次に、最近五年間の大学別合格者数の表を見るとわかるとは思いますが、東日本全域にわたっており、かつ難関大学と言われる所にも合格者を出すようになり、名実ともに「進学校」としての地位を確立しました。今後、さらに、生徒の進路希望実現のために、学校一丸となって努力していきたくと思えます。

## 年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期
	S57年	S58年	S59年	S60年	S61年	S62年	S63年	H1年	H2年	H3年	H4年
学級数	6	6	6	6	8	8	8	8	9	9	9
卒業生数	(281)	(265)	(262)	(283)	(365)	(361)	(372)	(376)	(427)	(423)	(431)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65	88	109
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188	278	291

卒業年度	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期
	H5年	H6年	H7年	H8年	H9年	H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	H15年
学級数	9	9	9	8	8	9	9	9	9	9	9
卒業生数	(421)	(408)	(403)	(357)	(354)	(351)	(354)	(362)	(350)	(358)	(359)
国公立大	96	109	85	109	113	114	145	150	115	165	153
私立大	333	299	418	413	327	313	311	346	349	247	248

## 〈学校種別合格者数〉 平成11・12・13・14・15年度生

	18期	19期	20期	21期	22期
国公立大学	145	150	115	165	153
私立大学	311	346	349	247	248
準大学	0	0	0	1	0
短期大学	22	27	10	18	22

## 〈大学別合格者数〉 平成11・12・13・14・15年度生

大学名	18期	19期	20期	21期	22期
北海道大	0	1	0	0	0
弘前大	3	0	0	1	1
岩手大	4	10	5	2	4
東北大	7	2	5	2	4
宮城教育大	0	0	0	2	2
秋田大	4	3	0	4	1
山形大	18	8	16	19	13
福島大	35	50	40	39	46
茨城大	9	8	1	7	3
筑波大	0	1	1	1	4
宇都宮大	4	4	2	13	13
群馬大	4	2	1	1	2
埼玉大	1	1	3	8	8
千葉大	4	3	1	4	1
電気通信大	1	2	0	1	1
東京大	0	0	0	1	0
東京外国語大	0	0	0	1	2
東京海洋大	0	0	0	1	0
東京学芸大	0	0	0	2	1
東京農工大	0	1	1	0	0
一橋大	0	1	0	0	0
横浜国立大	1	0	1	0	1
新潟大	7	5	7	12	5
上越教育大	0	0	1	0	1
金沢大	1	0	0	1	2
山梨大	0	1	1	0	1
静岡大	2	1	2	0	1
京都大	0	1	0	0	0
その他	8	7	2	6	1
計	113	112	90	128	118
釧路公立大	3	2	0	1	2
青森公立大	0	0	0	1	1
岩手県立大	3	3	0	2	4
宮城大	0	1	2	4	2
秋田県立大	2	9	3	2	0
山形保健医療大	0	1	0	2	0
県立医大(看護)	3	5	2	2	5
会津大	6	2	4	7	7
高崎経済大	8	7	9	7	8
横浜市立大	0	1	0	1	1
都留文科大	4	2	1	3	2
その他	3	5	4	5	3
計	32	38	25	37	35

大学名	18期	19期	20期	21期	22期
盛岡大	6	1	2	4	5
東北学院大	40	48	20	16	37
東北工業大	5	5	6	4	1
東北福祉大	9	21	10	8	13
東北薬科大	1	2	4	2	2
国際医療福祉大	4	2	3	2	1
獨協大	1	2	8	6	5
文教大	4	16	5	2	4
青山学院大	2	0	10	0	0
学習院大	1	0	2	0	3
國學院大	3	6	4	0	2
駒澤大	7	2	0	3	4
国際基督教大	1	0	0	0	0
芝浦工業大	2	2	5	0	0
上智大	1	0	0	0	0
成蹊大	0	3	3	1	2
専修大	9	11	12	12	11
大東文化大	4	6	9	3	3
玉川大	3	2	0	0	2
中央大	2	7	5	8	5
東海大	1	6	19	8	11
東京女子大	2	0	1	3	3
東京電機大	8	3	6	2	2
東京農業大	2	3	4	2	0
東京理科大	6	3	2	0	1
東洋大	7	17	6	3	6
日本大	34	29	30	19	14
日本女子大	0	1	0	4	0
法政大	5	6	6	3	6
武蔵大	0	7	4	3	3
武蔵工業大	3	5	2	2	0
明治大	7	7	8	9	4
明治学院大	0	0	3	2	2
立教大	1	0	1	2	2
早稲田大	0	1	3	3	1
神奈川大	8	5	12	9	7
関東学院大	4	2	4	0	2
同志社大	1	0	0	0	0
立命館大	1	2	0	1	1
その他	116	113	130	101	83
計	311	346	349	247	248

# 部 活 動 報 告

## 15年度

- **野 球 部**  
3回戦 対日大東北高 2 : 5 敗
- **サッカー部**  
選手権県大会決勝 対郡山北工 2 : 0 優勝  
全国大会 2回戦 対丸岡高 1 : 1 P K 2 : 4 敗
- **卓 球 部**  
県大会 男子団体 2回戦 対安達高 0 : 3 敗
- **陸 上 部**  
全国大会走高跳 10位 遠藤哲也  
100m H 国分優佳  
100m 清野哲一
- **バスケットボール部**  
県大会男子 2回戦 対福商高 56-75 敗  
女子 2回戦 対会津津鳳高 47-83 敗
- **柔 道 部**  
県大会男子ベスト16
- **バレーボール部**  
県大会男子ベスト8  
女子 2回戦 対双葉高 0 : 2 敗
- **ソフトボール部**  
県大会 3位
- **バドミントン部**  
県大会 1回戦敗退
- **剣 道 部**  
県大会予選敗退
- **水 泳 部**  
県大会200m背泳ぎ 4位 高木竜馬
- **テ ニ ス 部**  
県大会女子団体戦ベスト8  
文化部もそれぞれにおいて活躍。

## 16年度 前期

- **サッカー部**  
プリンスリーグ参加  
県大会準決勝 平工業高 0 : 1 敗
- **陸 上 部**  
県大会女子総合 3位  
・女子4×100m R 保住理紗  
・女子走り幅跳び 国分優佳  
・女子100m H 以上全国大会出場
- **バスケットボール部**  
県大会男子 1回戦 対日大東北高 68 : 70 敗
- **バレーボール部**  
県大会男子 2回戦 対会津工 敗
- **ハンドボール部**  
県大会男子 3位
- **剣 道 部**  
男子団体 3回戦 対磐城高 敗
- **柔 道 部**  
県大会男子個人81kg 2位 尾形泰道  
東北大会 2回戦敗退
- **卓 球 部**  
県大会団体男女 1回戦敗退  
東北地区総体団体男子 初優勝
- **ソフトボール部**  
県大会 3位
- **合唱部・吹奏楽部**  
東北大会出場 (吹奏楽部は11年ぶり出場)

### 生徒会

東高校生徒会の一年の活動について紹介する。生徒会の任期は半年、五月と十一月に選挙がある。

四月上旬、新入生オリエンテーションで、新入生を迎え、特別活動や年間行事を説明する。部活動紹介は毎年、爆笑の渦が巻き起こる。どの部活も勧誘に必死だ。下旬になると生徒総会。昨年度の反省と今年度の目標を全校生徒で確かめる。

五月の選挙を終えると多忙な日々が始まる。七月の夏期スポーツ大会（以下スポ大）と、夏休みに入ってすぐの中学生学校見学会があるからだ。さらに九月の東桜祭の実行委員としての活動も加わる。東桜祭は一年で最も大きなイベントだ。そのために全校生徒が一丸となって企画運営に精一杯汗を流す。

嵐のような七、八、九月を終えると、十一月にまた選挙、新しい体制で始動する。十二月の冬のスポ大後、年を越すと、二月は校内アンケートを行ったりして学校の制度を変えるような活動をする。三月に入ると予算審議と翌年の新入生オリエンテーションの準備を始め、一年が終わる。生徒昇降口西側の生徒会室では、今日も東高向上のために生徒会一同頑張っています。

(鈴木 洋介)

### 吹奏楽部

県吹奏楽コンクールが行われた八月七日は、私にとって一生忘れられない日となりました。今まで生きてきた中で一番嬉しく、一番熱い涙を流した気がします。金賞受賞に加え東北大会出場という結果は、休みなく練習に励んできた全員の努力の成果です。頑張ってきたことが本当によかったと思います。

十一年ぶりの東北大会、部員の中に出場経験のある人はいませんが、未知の世界ではありません。自分達で試行錯誤しながら東高吹奏楽部の新たな一歩を踏み出そうと思います。そして、全国大会が行われる専門館めざして、更なる努力を続けたいと思います。

私は、吹奏楽がやりたくてやりたくて東高に入りました。吹奏楽部は、入って正解!!と思える場所でした。まず、こんなに数多くの人達との出会いがあったこと。これは私の財産です。いつも私達を支えて下さった保護者の方々や先生方、先輩方、後輩達には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとございます。そして、三年間この部で苦楽を共にし、色々なことを乗り越えてきた三十人の三年生は、信頼できる最高の仲間達だと思います。史上初の女子だけの学年だったけど頑張ったよね!!そして、多忙ながらもいつも真

剣に私達を指導して下さいました。ありがとうございます!!!

こんなにも多くの素晴らしい出会いの中で、大好きな楽器を吹き、吹奏楽に打ち込んでこれ、自分はずごく幸せだと実感しました。東高吹奏楽部員でいられる時間が限られているのは悲しいことだけれど、限られているからこそ、仲間や時間を大切に、一つ一つのことに全力で向かっていけるのだと思います。部員でいられる時間の限り、よりよいものを目指し頑張りたいです。そして、引退してからも、ここで得たものを大切に、勉強に励みたいと思います。

(齋藤 祥子)

### 男子バスケットボール部

僕にとって部活動での三年間はとてもかけがえのないものです。素晴らしい仲間、そして尊敬できる先生にも出会えました。

また、部長という貴重な体験を通して一つ大きくなれたように思います。日々の練習はきつく苦しかったけれど、とても充実した毎日を送ることができました。これから僕は応援される方から応援する方へと変わります。

その中で後輩達の活躍に期待し、少しでも彼らの力になりたいと思います。また、卒業した後でもどんな形であれ大好きなバスケットボールに関わっていきたくたいです。

最後に、僕達三年生を支えてくれた保護者の方々、技術だけでなく人としてすぐく大切な事を教えて下さった菊田先生、練習の相手や試合で応援して下さいました先輩方にも感謝しています。本当にありがとうございました。

## 柔道部

入部してから引退するまでの三年間は本当にあっという間だった。毎日勉強との両立で本当につらかったがこの三年間は充実していた。入学当時私には部活での大きな目標が二つあった。それは、二つ年上の兄と団体戦のスタメンとして出場すること、もう一つは東北、全国大会に出場することだった。この二つの目標を達成するために日々の練習に励んだ。途中スランプなどで目標を断念しそうになったり部活を辞めようと思っこともあったが何とか乗り越えた。その結果、全国大会出場は逃したものの目標を達成することができた。この部活動生活は目標を達成したということも大きな成果であるが、それ以上に大切なものを得ることができた。それは言葉には言い表わすことはできないが私の心や体に刻まれている。このようなものを得ることができ、悔いなく部活動生活を送ることができたのも家族や先生、友達、先輩、後輩等たくさんの方に支援してもらったおかげで

あるのでお礼を言いたい。そして私を人間的にここまで成長させてくれた柔道にも感謝している。これからの生活は福島東高校柔道部で培ったものを生かして何事にも全力を尽くし悔いが残らないようにしたいと思う。

最後に後輩達へ

自分を知り自分を信じる事が上達への近道だと思います。これからの健闘を期待しています。頑張ってください!!

## 陸上競技部

陸上競技部に入ってから、引退するまで三年間というのは、今考えると本当に一瞬の内に過ぎてしまった気がする。インターハイや国体に参加した選手や、中学時代に名が通っていた選手と共に練習できたため、毎日が充実した日々だった。「インターハイ出場」や「自己ベスト更新」などといったような自明な目標があったことで、継続して練習ができたと思う。もの凄くきつい練習ばかりだったが、妥協を許さない雰囲気の中で練習は自分の実力が向上しているのを実感できた。それから、陸上競技は個人中心ではあるが、自分一人だけでは決してできるものではない気がする。つらい練習を共にこなしてきた仲間存在はとても大きかった。プライベートでも仲の良い人が多く、ほとんどの思い出は陸上競技部との

思い出ばかりだ。時には先輩との関係や友達関係で部を去った人も多々いたようだが、大会においては、仲間のサポートや応援に支えられた部分も多く感謝する気持ちも多かった。伝統ある東高陸上競技部で部活動ができて本当によかった。そして今後東高陸上部の名をもっと全国に轟かせてくれることを期待したいです。

## 男子テニス部

僕にとってテニス部に入ってから三年間はとても楽しいものでした。仲間や先輩、後輩、先生に恵まれ充実していました。僕達が入部してから先輩方が引退するまでいろいろなことを教えてもらい、調子が悪い時にはアドバイスをくれたり、優しい言葉をかけてくれました。そんな先輩がいたから僕達は成長することができました。とても感謝しています。しかし、僕は先輩方にそうしてもらったように後輩にしてあげられていなかったと思います。何もしてあげていないまま引退してしまっったのが心残りです。引退してしまっただ今、自分達の部活動を振り返るととてもかけがえのないものだったのだと感じます。だから、後輩には悔いの残らないようがんばってほしいです。今まで僕達がとても楽しく、充実した部活動をできたのは先輩がいて、

仲間がいて、後輩がいて、いつも僕達を支えてくれた顧問の先生がいてくれたからです。本当にありがとうございました。

(小林 直人)

## 卓球部

僕が部活の事で一番言いたい事は、チームメイトや先生に対しての感謝の気持ちです。いろいろお世話になった先輩から受け取った伝統を部長として支えてくれたのは、周りの仲間達がいたおかげです。困った時やつらい時には励ましてもらい、楽しい時やうれしい時には一緒に喜んでくれる、そんないい仲間が恵まれてこの三年間本当に充実していました。そして三年間はすごく短かったです。最後の試合負けした後、先生に「お疲れ様」と声を掛けられた時、これで終わってしまったんだとすごく寂しい気持ちになりました。

僕達三年生は受験勉強という今までは違った場所で戦っています。卓球部で培った根性で乗り切っていけると思っています。後輩達には僕達が先輩から受け継いできた伝統を引き継ぎ、そして自分達で新たな伝承をつくってほしいです。

(森口 慶紀)

## 山岳部

二年と数ヶ月の部活動を終えた今、感じていることは、大変

でも楽しく、充実したものでした、ということ。振り返ると、特殊な山岳部ならではの活動に、最初は戸惑い、自分は選択ミスをしたのではないかと、思ったこともあり。ただ、活動を通していく中で、先輩達とも仲良くなり、山を楽しめるようになりました。

また、不可解にも自分が部長になり、後輩を指導する立場になった時、自分を支えて、部に尽力してくれた部員みんなに感謝しています。

自分達の代では、全国大会出場は叶いませんでしたが、後輩達の活躍を期待して、頑張ってくださいと思います。

山は、人を大きく成長させ、感動を与えてくれます。この体験ができたことを、そして、東高山岳部に所属したことを、今では本当によかったと思います。

(加藤 裕樹)

## 美術部

アーティストには変わり者が多い、などとよく耳にしますが、美術部の面々は真にその通り、何処かネジのはずれた者ばかりでした。先輩方や我々、後輩達へとその精神は遺伝し、受け継がれること幾星霜。そのおかげで三年間ずいぶん楽しく優雅(?)に送ることができました。先輩方へ一言。お元気でしょ。風邪などひいてないでしょ。



うか。我々は、今まさに貴方達の背中を追い掛けんとスタートラインに立っています。追い抜く勢いで走るつもりですが、振り返らずに突っ走って下さい。後輩へ一言。我々は、貴方達に何か残すことができたでしょうか。我々を見てくれていた貴方達は、その目や耳で何を感じたのでしょうか。私には皆目見当もつきませんが、もしも何か感じたものがあつたのなら、その気持ちを大切にして下さい。

仲間達へ一言。我々はこれから様々な困難や苦難にプチ当たり、時には負けてしまふ事もあるかもしれませんが、さすが諦める事は絶対にあつてはなりません。負けたくしても、勝つまで諦めてはなりません。勝つまで闘うことを胸に刻んでおきましょう。最後に。全体的に真面目に書いてしまったので一つ無駄話をば。先日近所の猫になつてくれました。勝手に名前を付けてやりました。いい気味だと思いました。

(大宮 政士)

### 演劇同好会

西暦二〇〇二年の秋、我が福島東高等学校に演劇同好会が発足しました。顧問の伊藤先生を筆頭とする愉快な仲間達が集合し結成しました。発声練習や台本の読み合わせ、ビデオ鑑賞の他にも、高校の演劇大会に補助役員として手伝いに行ったり

口の劇団の公演を観に行つて本格的な演技に触れたりしました。こんな風に学べるチャンスが沢山あつたにもかかわらず、充分に学べなかつた自分の部活に対する姿勢がとて心残りです。同好会の活動を通して一番感じたこと。それは一つの物事をやり通す大切さです。中途半端なまま活動を終わってしまったことへの後悔は悔やんでも悔やみきれません。だからこそ、これから先の人生において後悔のないよう一杯やっつけていこうと思います。

最後になりましたが同好会を立ち上げるため協力して下さい。方々、顧問の伊藤先生、部員の皆様、今まで本当にありがとうございました。 (横山 絵里)

### 女子バスケットボール部

今までの高校生活を振り返ると本当にバスケット一色だったなと感じます。今となっては、あれだけ自分の好きなバスケットができたことは本当に幸せだったと思えますが、現役のころは、幸せという文字は有り得ませんでした。来る日も来る日もバスケット漬け。練習から逃れたいと思つこともありました。無くしつから、そのものの重要性に気づくと、まさにこのことなのだろつと思ひます。引退してから、バスケットというものが自分にとってどれほど大きな存在だつたかということに気づか

れました。だからこそ、後輩達には、今バスケットができる時間環境を大切にしてほしいです。そして、バスケットをもつともつと好きになつて、楽しみながらやっつけてほしいと思います。

私は、小中学とほとんど変わらないメンバーで、一年年十五人という多人数でやってきました。しかし、高校で私の学年は四人+マネージャー一人の五人。そして、全く違う中学校。初めは不安でした。しかし、逆にその環境が私のバスケットに対する考えを改めさせてくれました。人数は少なかつたけれど、いろんな意味で密度は濃かつたのではないかなと感じています。東高でバスケットができて、本当によかつたです。

最後になりましたが、今までご指導して下さいました、中村先生や菊田先生、矢澤先生には本当に感謝しています。また、私達が東高でバスケットができたのは、男子校から共学になつた当時の先輩方の力があつたからだと思います。私の高校でのバスケットは終わつてしまいましたが、私のバスケット人生は終わりません。東高OGとして、できる限りのことに協力していきたいと思つています。また、多くの人達にバスケットの楽しさ、よさを理解してもらえような活動をしていきたいと考えています。 (宮崎 舞)

### 女子バレーボール部

バレー部に入つて、辛かつたり楽しかつたりいろいろんな経験をしてくさんのことを学ぶ事ができました。

負けた時には、自分たちの悪いところを改善しようと思ひながら泣きながら話し合つたし、短い期間だつたけど眠いなか朝練も続けました。みんな勝つために必死で、たくさんの努力をしてきたと思います。先生や先輩、後輩にたくさん支えてもらつたり、まわりの部活の人たちに迷惑をかけてしまつたりしたけれど、私達が頑張つてきたことは無駄ではないと思います。結果を残すことはできなかつたけれど、後悔はしていません。

どちらかというところ、辛い事の方が多かつたかもしれないけれど、続けてきたことは本当によかつたと思ひます。勝つた時の喜びは忘れることはできません。この経験は将来きつと役に立つときが来ると思ひます。バレー部だつたことは一生の宝物です。

### 英語同好会

英語同好会では主に、ELTの先生と英語でコミュニケーションをとる活動を行っています。現在のELTの先生はライアン・マクドナルド先生で、とてもおもしろくて気さくな先生です。ライアン先生は今年から同好会

に力を入れるため、様々な努力をしています。今までの同窓会では、楽しくゲームをしたり、英語で軽い会話をするだけでしたが、今年からは私たちにレポートの宿題を出したりパーティーを開いたり、ケーキを作つたり、新聞を作つたりと忙しそつです。私達も今までは違う英語同好会で苦労しながらも活動していましたが、ライアン先生はいつも英語の大切さを教えてくれる気がします。英語はこれから先私達の将来に必ず必要になるものだと思います。その英語に少しでも多く触れる機会である、英語同好会の活動を大事にしていきたいと思ひます。

### S F A アニメ同好会

会誌の発行は年に一回、大きなイベントは東桜祭で展示発表、それに加えて公開文化祭では便せんも作りました。

同好会の会員はほとんどが部活をかけ持ちしていたのでこちらに重点をおいて活動することはできませんでしたが、その中で精一杯の活動がすることができたと思つています。今でも一生懸命作つた会誌のページをめくる度に、その当時の苦労や先輩、友人の言葉をしっかりと思い出すことができます。しかし私が三年になつてからは元々少なかつた会員が先輩方の卒業によって激減し、会誌を作

ることもできず同好会を存続させるための会員がいないう状態でした。S F A アニメ同好会は歴史のある同好会であって、私たちの代でなくすことはできないと強く思っています。この場を借りて、在校生で少しでも興味のある方がいたら、ぜひ図書館にある会誌のバックナンバーを読んでみて下さい。

好きな事をするためには、たくさんの努力と忍耐が必要だと身をもって感じる事ができた三年間でした。しかし皆でそれを成しとげることは、それにも勝るものだったと思っています。活動にあたって協力して下さい。た先生方、先輩方、友人たちにお礼を言いたいです。ありがとうございました。(齊藤かおり)

## ハンドボール部

部活を終えた僕が言えるのは、継続すること、無理はしないこと、常に意識を高く持つことの三つです。ここで注意しておきますが、これらは別に僕が現役の間に心がけていたことではなく、引退してみた今の僕が部活を終えて感じたことです。

継続すること。それはかの格言にもあるように、正に力になります。必ずなります。継続した努力は足し算ではなく、掛け算です。しかも特殊な掛け算で毎日努力という数を掛けることによって、ある日積が大きく増える掛け算です。しかし毎日数を掛け

ないと、数が増えない掛け算です。無理はしないこと。ハンドボールの練習でも勉強でも何にしても、毎日自分のできることしかできません。それをわきまえないと、何も事を成すことができません。身体が壊れますから。人によって一日にできる量は違うということをしつかり把握して、自分にできることをするのが大切だと思います。

常に意識を高く持つこと。自分が何をしたいのか？自分の立てた目標は何だったのか？このような自分の気持ちを常に持つこと。決して妥協しないこと。井の中の蛙にならないこと。

自分の思うところをひたすらに書き綴ってしまつて申し訳ありませんが、今の自分にしか書けない気持ちだと思つので、敢えて書かせていただきました。最後になりましたが、三年間共にハンドボールをした同期の皆や先輩方や後輩達、顧問の遠藤先生、充実した日々をありがとうございました。

## 水泳部

六月二十四日から二十七日までの四日間、いわき市民プールでの福島大会が、僕の水泳部員としての最後の競技となりました。個人種目である百m平泳ぎと、団体種目である四百mリレーに出場し、どちらもベストを尽くしました。

福島東高校に入学した僕を水

泳部に入部させた一番の要因は新入生への「活動は各個人の責任において自ら管理する。」という入部勧誘の言葉でした。自己の責任において行動できる高校生活がとも魅力的に思えたのを覚えています。

実際に、これまでの水泳部の活動で得たものは期待したものでした。精神力や体力を養うというスポーツ本来の目的はもちろんですが、それ以上の収穫は個性豊かな仲間に出会えたことです。基本的に個人競技であり、ある意味では自分自身が相手とも言える水泳の世界には、精神的に自立した個性的な人が多く、その中で先輩後輩などの上下関係にとらわれない良い人間関係が築けたと思っています。彼らと一緒に練習し、大会に出て、時には下らない事もした二年半は

これから先の自分の人生の基盤となる事は間違いありません。現在水泳部は部員の数がそれほど多くなく、時には物足りなく感じる事もありますが、反面少人数だから出来る事もあります。今は頼もしい下級生達が頑張ってくれているので安心です。これから先も一人一人の持ち味を十分に発揮できる水泳部であってほしいと願っています。

## バドミントン部

この三年間、僕は、本当にいい経験ができたと思つている。

中学の時もバドミントン部だったが、これほど熱中できるとは思つてもいなかった。

二年のインターハイの時、僕は団体戦のメンバーに選ばれ、先輩と組んだダブルスで接戦を制し、県北二位で団体県大会出場を決めることができた。あの時の試合は今でも思い出出すことができる。(橋先輩、最高でした!!)しかし、県大会では一回戦敗退に終わってしまった。僕は先輩たちの分まで頑張ろうと、一年後のインターハイを目指した。

迎えた最後の大会。僕は「絶対勝つ」という気持ちで試合に臨んだ。しかし結果は僕のダブルスが負けてしまい、団体県大会出場を果たすことができなかった。悔しかった。悔いは絶対残さないと決めていたのに残ってしまった。

悔しさは残ってしまったが、仲間と楽しんで部活ができたこと、何よりバドミントンを好きになれたことは、自分にとってよかったことだと思つ。それでいて負けてしまったのは、どこか妥協していた面があったからだと思つ。だから後輩達には、今の自分に満足しないで、貪欲に勝利を目指してほしい。期待しています。最後に顧問の先生方、先輩方、三年生のみんな、いろいろありがとうございました。

僕は東高でバドミントンができてよかったです。(山川 大輔)

## サッカー部

高校サッカーは、実に短いものだと最後の選手権を目前に控え、思い始めた。

昨年の全国大会でPK戦で負けたあの日から、僕たちの目標は、先輩方の果たせなかった「国立」に決まった。しかし、いざ練習を始めてみると、どうしたらいいかわからず、時間が過ぎた。先輩方が引退してからという日々は本当に早いものだった。悩んでいるとあつという間に大事な時期が来てしまふ。悩むのも必要だが、今自分に何ができるのかを考えるのも大切だと思つ。だが、そんな中でも国立へ行きたいという気持ちは変わらず、選手権が近づくとつれて増していくのである。高校生のほとんどは、インターハイより選手権の方が熱くなるだろう。どうして選手権は僕たちをこんなにも気持ちを熱くさせるんだろうか。それは、今まで共に喜びや挫折を味わってきた仲間との集大成であり、何より三年間必死でサッカーをやってきたからであろう。

こういう思いがあるからこそ選手権では国立まで勝ち進み、願わくば、笑つて最後を締めたいです。(新聞 拓也)

## ソフトボール部

僕のソフトボール部での三年



間はあつという間に過ぎた。一年の時は好き勝手やって先輩には大変迷惑をかけていたと思う。下級生がそんなのばかりだったチームをまとめてくれた先輩方には感謝してもしきれない。そういった事にキャプテンになって初めて気付いた自分の未熟さがとても恥ずかしかった。

キャプテンになってからもチームをつまくまじめめ、はじめ十八人いた部員も徐々に減っていき、僕らが三年になる頃には十人にまで減ってしまった。やめていく部員を止めることのできない自分の非力さには本当にがっかりした。それでも、先生やコーチに来てくれてる先輩、仲間達に支えられて日々の練習に明け暮れた。

三年になってからの練習は充実そのものだった。個人としてもチームとしても着実に力がついていくのがわかった。しかし、最後の県大会は力及ばず準決勝で敗れてしまった。悔しくて涙が止まらなかった。

ソフト部ではいろいろなこともあったけど、その分、自分の弱さを見つめ大きく成長することができた。キャプテンがこんな僕でも最後までついてきてくれた仲間や、選手よりつらい仕事が多かったマネージャー、つらい時に手を貸してくれた先生や先輩方、いつも応援してくれた保護者の方々、出会った全ての人ののおかげでか

けがえない時間を過ごすことができた。ソフトボール部に入って本当によかったと思う。

### 男子バレーボール部

バレーボールは俺たちの青春だった。

三年間この東高校でバレーボールをやってきたことは、私たちにとつての誇りであり人生においての大きな自信となった。技術的な面でも、仲間たちと試行錯誤し自分達の目標とするプレーを試合で出せるようになった。そのことでよりバレーを好きになつたし、もっと上を目指そうという向上心から、私たちは確実に強くなつていった。精神的な面でも、顧問の遠藤先生の激しい『ワマン』と気持ちのこもった言葉は、現役時代のプレーやこれからの人生においても大きな支えとなつてくれるだろう。そして、このともにプレーしてきた仲間、私の一生の宝物だ。今まで応援していただいたOBや保護者の方々に感謝の意を表するとともに、これからの人生においてバレーボールを通して学んだことを生かしていきたいと思つた。

### 合唱部

合唱部は発足してからまだ八年足らずですが、この八年という短い期間の中でめざましい発展を遂げました。特に私たちの学年が入部してからの三年

間は、それまでの伝統を守りつつ新しい事や新しい業績を残しています。

県大会での金賞受賞や東高合唱部だけの定期演奏会を行ったことは大きな前進でした。教えられる事をやるだけの受身の部活動ではなく、自ら進んで活動する積極性を得ることができました。

顧問の先生方への感謝の気持ちはもちろんですが、今回定期演奏会を運営するにあたって改めて感じたことは、OB・OG会の存在の大きさです。合唱部を立ち上げ、受け継いできただけでなく、卒業した今でも合唱部を支えて下さる先輩方にとても感謝しています。

今年のコンクールはもちろん去年より優れた成績を残しました!! (加藤亜寿沙)

### 女子テニス部

私は、三年間部活をやり続けて本当に良かったと思つている。そう思えるのは、部活を通して多くのことを学べたし、充実した生活を送ることができたからだ。しかし、それも今まで一緒に部活をやってきた仲間達がいってくれたおかげだと思つた。そこで、みんなにメッセージを送りたい。

まず、尚ヒール、みんなに気を配り、相談にもよくのつてくれとてともうれしかったです。佳奈、練習に対して人一倍真剣で、いつも感心させられました。ゆ

かり、一緒にいると楽しくて、いつも元気になりました。靖子、靖子の心惹かれるきれいなプレーは、ずっとあこがれです。未紗、とてもしつかり者で、困つたときに頼れる陰の部長さんでした。彩っぺ、弱音を一つも吐かずに、部活をやり通した強い心に尊敬します。舞美、舞美がいるだけで部活の雰囲気を楽しんでいるか、おかしくなりました。永遠に私達の裏番長でいてね。ちば、気がつくくと、ちばの笑顔に慰められることが何度もありました。理加ちゃん、その可愛さで部員のみんなは、いつも癒されました。

時にはライバル心燃やしたり、時には励まし合つたりしたけど、みんながいたから、辛いことも乗り越えられたし、ここまで上達することができたと思つた。みんなとテニスができる本当に楽しかった。三年間、本当にありがとう。(藤井あさみ)

### 地歴部

二〇〇四年。日本では、国会議員の年金未納問題が論議をかもしたり、泥沼のイラクで日本人が人質になったり、プロ野球のリーグ制への動きが見られたり、拉致被害者家族が帰国したりした。

東高も、募集定員削減で一年九クラスだったのが八クラスに減り、現在の全校生徒数は三年前と比べて二〇人少なくなつ

た。また、文化部の統廃合が行われ、歴史部も地理部と合併した。東高の歴史の転換期と言えるかもしれない(大塚あかね)

振り返れば、歴史部は、約二十年ほど前に社会部から分かれて以来、多い時には部員数が三十人にもなり、十回以上部誌を発行してきたが、今や残るは僕一人だ。

四月の部活紹介、手応えはあつたのだが、去年今年とも新入部員はなかった。去年今年となるとさすがにキツイ。

こうなつた以上、一人でテーマを決めて調査してレポートを書くしかないのだが、私の力では部誌を発行するまでには全く及ばなかった。

一人で考え、一人で仕事を成し遂げるということはなかなかむずかしい。

### 野球部

十五人の最高の仲間と最後まで一緒に野球ができたことは、一生の思い出となった。三年間の中で成長したり、挫折することもあるが、それら乗り越え、僕らは最後の大会に全力をぶつけた。

七月十日、初戦の相手は喜多方高校。初戦の緊張からもあつて乱打戦となつたが、我々は打ち勝つた。結果は十三対六。

続いて七月十二日。相手は岩瀬農業高校。両投手が好投し、

七回まで無得点。しかし七回、我々は先制した。だが八、九回と相手に得点を許し、結果は一對二で敗北した。我々の夏のドラマは第二話で終わった。

今までご指導いただいた先生や先輩、そして支援していただいた両親、共に戦った仲間たちには感謝の気持ちでいっぱい、また後輩たちには、甲子園という舞台で歌う校歌を何度も響かせてほしい。(赤間 亨)

## 生物部

生物部は特にこれといって華々しい活動をしてきた訳ではなかった。しかも、どのような活動をしているのかさえ、校内でも把握している人は殆どいないだろうと思われる。というのも、生物部は年々部員数が減少し、大会にも最初の一年しか出るこゝとが出来ず、他の部活より知名度が低かったためであろう。それでも私はこの部で非常に多くのものを得ることが出来た。師や仲間との出会い、少ない部員で臨んだ東校祭、そして亀の世話など数え切れないほどだ。そこから色々学び、吸収していったように思う。三年間、という長いようで短い高校生活だったが、かけがえのない思い出である。

ただ、一つ心残りなのは部室に生息している亀や金魚のことである。心優しい後輩が、彼等の世話をしてくれることを切に

## 弓道同好会

願っている。(大堀 信一)

部活、いや同好会が動き始めて早一年半。創立されてから歴史は浅い(本当は昔にもあったらしい)が、他校の弓道部にせまるような成績をおさめた大会もあった。もちろん、がんばった選手たちの手によるものが大きいと思うが、同好会を設立してくれた先輩、先生方、また、指導をしてくれた先生、さらには県工でお世話になった、先生、先輩方などのお力添えがあつてこそのものだと思う。先輩、先生方には感謝してもしきれない。それほど多くのことが、三年間の間にあつた。時には練習が嫌になる時があるかもしれない。しかし、それを乗り越えたとき得られるものは大きいと思う。後輩のみんなにも、是非挑戦してみてほしい。最後に、三年間一緒にがんばってきたみんなに感謝したい。(齋藤 竜也)

## 社会部

果てなく大きな暗澹たる不安と、チリともつかない微々たる期待を、大概だけはいつぱしの空気に押し込んで、この虚しくも愚かしいパーティーは始まった。初めは愛想善く、徐々に表立って忌み、そして遂には存在否定。異端に内包された儘を諦観し得ず、許容すらし得ない傀儡の豚

どもの中で唯一、己が己であることさえも認識できない人間以下のなにかは、そこに在る意義を常に問い続けていた。

それはあまりに稚拙で、あまりに滑稽で、何よりあまりに愚笨だった。それを解したからといって何かが変わるわけではなく、何かを変えられるわけでもなかった。絶えず感じ続ける苛立ち、焦燥、煩累、そして自嘲。

深淵なる絶望の上に、薄氷に支えられているが如き世界が横たわっている。そんなものを傍観したいわけではない。墮ちた世界に同調せざるを得ない失望にも似た悲観を念う傍ら、外殻だけを彩った呪わしい関係を結び続ける傀儡たちに、根元的な一抹の同情と、吐き気を催すほどの嫌悪を覚えている。

矛盾とも、両儀とも言えるがらんどこの精神を誤謬のままに、形骸のままに無機化させていく。そこに道標はなく、当然のように終着もない。蹂躪された負け犬には、従順になる力すらも残されない。

and that's all...?  
(それでおしまい?)

## JRC部

JRC部では、今、駅前清掃に参加したり、校内に箱を設置して切手やプリペイドカードの収集を行っています。今現在、部員が一人なので、なかなか活

動ができないのが現状です。これから、部員数を増やし、もっといろいろな活動をしていけたらと思います。

## 写真部

写真部では、好きなときに写真を撮っています。写真を現像したときに、自分の思い通りに撮れたものがあるところでもうれしいです。良く撮れた写真は、コンクールに出品します。去年は、二年生の作品が全国大会まで進み、徳島県へ行ったりと、満足のいく活動をする事ができました。

今年度は一年生が入らず、部員が一ケタという危機的状況ですが、来年度は何とかして部員を増やし、より活発な活動をする部になってほしいです。

## 科学部

僕たち科学部は、昨年研究した「鉛筆蓄電池」で、先日コラッセふくしまにて行われた福島市発明工夫展にて賞を受賞いたしました。現在は、一年生二年生共に二名の計四名にて十一月に行われる発表会に向けて、ピタミンCの酸化防止効果についての研究を行なっています。部員数は少ないですが、より良い研究となるよう活動しています。

## スキー部

スキー部はあまり目立たない

部活であると思います。スキー部の紹介をします。部員は一人私だけです。現在大変な部員不足です。募集中なのでよろしくお願ひします。

今後も頑張りたいと思うので応援よろしくお願ひします。(坪井 大介)

## 剣道部

僕たち剣道部は、少人数ながらも先輩方から受け継いだ伝統を守り、必死に練習に励んできた。

僕たちの目標は簡単にできた「強くなる!」ただそれだけだ。でも、少し違う所は、チームとして強くなる事だ。

まず始めに、僕たちは基礎を徹底して練習した。更に、錬成会や練習試合に積極的に参加し、チームとしての実力をつけられた。そして、最後の大会、二日目に残るための最後の試合、代表戦になり僕が出ることになった。三回僕は勝ったと思った。しかし有効にならず、「なぜ?」と思った瞬間、僕たちの夏は終わっていた。

僕たちを支えてくれた佐久間先生には本当に感謝している。そして、後輩達には僕たちよりも強くなって欲しい。そしてなにより、一年から一緒にがんばってきた三年生にありがとうと言いたい。(今野 英樹)





**銀賞** 第47回 全日本吹奏楽コンクール東北大会  
〔2004年8月28日 青森市文化会館〕

**吹奏楽部  
合唱部  
特集**

**吹奏楽部**

演奏曲目

課題曲

「祈りの旅」

作曲者 北爪 道夫

自由曲

「サウンドバリアー」

作曲者 M・アーノルド

指揮 佐藤 恵一

**吹奏楽部・合唱部  
東北大会出場**

創立二五年の今年、福島東高に、また新たな記録が加わりました。吹奏楽部・合唱部Wでの東北大会出場!! 運動部同様、昼夜を通しての練習の結果がこのような形として表れたのだと思います。

吹奏楽部は、東北大会出場が十一年ぶり(九回目)ということもあり、出場が決定した際の喜びはひとしおだったと思われます。合唱部にいたっては、二年連続(六回目)の出場となりますが、「合唱王国福島」と呼ばれるほどレベルの高い本県の地区大会を突破しての東北大会出場は素晴らしい記録です。

現在、両部の部員数は、吹奏楽部員一〇九名・合唱部員五三名、計一六二名、全校生徒が九五六人ですから、約六人に一人はどちらかの部に所属していることとなります。この人数をまとめ、結果を残す、顧問の先生方の情熱と苦勞は並みのものではないと思います。

先人達の築いてきた大きな土台の上で、現在の東高生達は、より善きものを目指し日々精進しています。

「新しい伝統」、常に上を目指



指揮 佐藤 恵一

す福島東高の活躍からは、運動部・文化部共に今後とも目が離せません。

**合唱部**

演奏曲目

課題曲

「樹氷と風と」

(「星の生まれる夜」から)

作詩者 橋爪 文

作曲者 萩原 英彦

自由曲

「MISSA BREVIS」より

「CREDO」

「SANCTUS」

作曲者

KNUT NYSTEDT

指揮 佐藤 恵一



**銅賞**

第57回 全日本合唱コンクール東北支部大会

〔平成16年9月24~26日 山形県民会館〕



# サッカー部 特集

## 第八十二回全国高等学校 サッカー選手権大会に出場して

福島東高校サッカー部  
監督 齊藤 勝

インターハイから帰って来ると県選抜選手七名は合宿に参加するため別行動となる時間が多くなつたが、県選抜は過去二年間は自分が監督をして国体の出場を逃していたので、選抜選手七名には県の代表としての誇りをもってチームに貢献し国体の出場権を獲得するよう、お願いして送り出した。

天皇杯の予選を選抜選手抜きで戦わなくてはならなかったが、選手権大会や新人大会のことを考えると選手の層を厚くするにはいい機会と考へて臨んだ。後から考えると控への選手を鍛える良い大会となつた。準々決勝からはレギュラーを出場させ、対戦相手は古河電池、準決勝は福島大学、決勝はノーザンピークスと福島県の社会人の強豪と対戦することができ、しかも夏場の九〇分ゲームを行うということでも貴重な体験となつた。しかし、夏場のフィジカルトレーニングにはなつたが、勉強には何もならなかつた。福島県の一種の現状に寂しさを感じた。秋にはいよいよ本番の高校サッカー選手権大会がはじまるのに、十月、十一月は一番つらい時期

となつた。それは高校生が一年間、トップコンディションを維持しつづけることの難しさを痛感した時期であつた。

九月の中旬には静岡国体に七名が出場した。当然応援に行き初戦の福岡戦では六名が先発出場した。どの選手も動きが良く勝利に貢献していた。特に遠藤賢太はキレのある突破からのパスは見事で運動量も豊富で私が選ぶならマンオブザマッチである。萬代は二得点し大友もキレのあるドリブル、國嶋は広範囲に顔をだしボールをさばっていた。あのプレーを見ていれば何の不安もなかつた。ましてや国体終了後は仙台カップに五名(萬代、遠藤、大友、大原、柳原)が選出され日本代表やブラジル代表、イタリア代表と国際試合の経験を積むことができたのである。選手は大きく成長してチームに戻るわけだからチームは必ず強くなることを確信していた。ところが、状況は違つていた。仙台カップが終わり、中間テストも終了し選手権大会の二次大会二週間前なので山形の羽黒高校と練習試合をおこなつた。選手の動きも悪く完敗だつた。テスト明けだから仕方がないなと思ひ、一週間後に佐野日大高校の胸を借りた。時折リスムの良い攻めはできて二度リードするが終盤に連続失点をしてまた負けたのである。やはり、高校生かなと思つた。選抜選手は成長して帰ってきたはずなのに、約二カ月(テスト期間を含ま

む)一緒にプレーしないことがこんなに大きな歪みをもたらすとは想像できなかった。すでに大会は一週間後に迫つていた。二次大会が始まつた。東高校が会場だつたので対戦相手を選手に見せた後練習の予定だつた。対戦相手になつた磐城高校の試合を見たとき、まずいなと思つた。高校生にとって初戦は鬼門だ。磐城高校は選手の動きが悪く最悪の状態だつたがなんとか勝利をものにしたのである。明日の磐城は絶対違うのに今日の試合を見せてしまつた。いやな予感的中した。二点を先行するが勢いは磐城にあり、セカンドボールは殆ど拾われ、苦しい状況の中、一点返された。何とかしのいで残り時間がなくなつてきたので、コーナーキープの指示を出し何とか逃げきつたと思いきや不用意にボールを失いロスタイムで追いつかれたのである。最悪の展開に普通のチームなら暗く落ち込み、沈んだベ

ンチになるのに、このチームは違つた。開き直りもあるが「点取ればいいんでしょ」とたくましい答えが返つてきた。結局交代投入した選手がそれぞれ得点し何とか勝つた試合だつた。うまくいかない原因がなんとなくわかつてきた。チームが成長する過程の一時的なものであると思つた。選手がこの一年間で多くの試合を経験し大きく成長してきたが、それぞれのサッカー観が同じ方向性ではなくなつていて感じた。プロでやる選

手、大学でやる選手、高校で終わる選手、進路もバラバラになり大学受験のため週末は殆ど模擬試験。課外を受けてから遅れてくる選手も多い。進学校の難しさを感じた。

それでも、これで終わるわけにはいかない。ただひとつ皆が一致している目標があるのだから。それは当然、全国大会に出場して勝つことである。簡単に調子が戻るわけでもなく選手もそれを理解し、夏までの華やかなサッカーから耐えながら勝機をものにしていく泥臭いチームに変化していった。決勝トーナメントの準決勝まではスコア的には楽に見えるが、内容的には勝負強さで勝つていったものである。決勝の郡山北工業は選手も認めるチームワークの良い好チームである。苦戦は予想していたので、内容は私も選手も気に入っていた。勝負強さを発揮した。ただ、それだけである。

全国大会を決めて重荷がとれたのは私だけだつたのだろう。何となく選手の表情も明るいし動きも軽く感じた。盛岡商業と壮行試合があつたが、テスト期間でもあつたので思い切つて長期休みにした。盛岡商業戦は逆転負けをしたが、個々としてもチームとしても調子が戻ってきた感触があつた。

十二月になつて「ヴィレッジ」に数回お世話になり調整合宿を行った後、御殿場で最終強化試合を松商学園、川崎Fユース、東邦と三試合組んだ。今年のチ

ームコンセプトは昨年のようになりしたサッカーを展開して勝つということであつた。そのためDFラインの位置、どこでボールを奪うか、ボールを奪つた後の速い攻撃を形にしていた。御殿場に入った初日の練習で強く感じたことがある。それは、今までの福島のチームにはありえなかつた選手のひとつひとつのプレーが非常に質の高いものになつていたことである。試合では松商学園に二対一で勝ち、川崎Fユースに三対一で勝ち、インターハイベスト四の東邦には二対〇と完勝であつた。東邦戦においては今までの教えてきた福島のチーム(選抜も含む)の中でも最高の試合だつた。ボールが良く動き、ワンタッチ、ツータッチでボールをさばぎアタッカーはドリブル、ワンツー、でサイドをえぐり決めるべき選手が決める。相手はボールを持って出るところがなくバックパスの連続。まさに理想的な夢のような試合だつた。もしかしたら、口だ

### 全国高校サッカー選手権大会の記録

年度	回数	対戦相手	スコア	大会名	会場
平成14年度	1回戦	大分	2-2	分(大)	分(大)
			(PK 5-4)		
	2回戦	武南	1-0	武南	(埼玉)
	3回戦	北越	1-0	北越	(新潟)
準々決勝	1回戦	桐蔭学園	1-1	桐蔭学園	(神奈川)
			(PK 2-4)		
平成15年度	1回戦	高松	1-0	高松	(香川)
	2回戦	北岡	1-1	北岡	(香川)
			(PK 2-4)		

全国高校サッカー選手権大会出場への募金状況(同窓生分)

- 平成14年度：3,698,777円(協賛者数：977名)  
\*その他 同窓会会計から150万円の援助
- 平成15年度：3,182,333円(協賛者数：853名)  
\*その他 同窓会会計から100万円の援助

数多くの同窓生からのご支援、また、心温まるメッセージを寄せていただきありがとうございました。

全国高校サッカー選手権大会寄付金のお礼

全国高校サッカー選手権大会では、同窓生の皆様から心温まる寄付金をいただき誠にありがとうございました。皆様のご支援のお陰で非常に良い準備ができ、大会に臨むことができました。結果は2回戦敗退でしたがベストを尽くすことができました。

一昨年は選手は、何も知らないで(陰の支えがあるということも)ただ無欲で頑張り続けた結果、ベスト8という思いもしなかった結果を残すことができました。福島へ帰ってくると、想像しなかったほどの反響があり、多くの方々の支えがあったからこそ良い結果が残せたことを実感しました。

今回は、福島東高校の代表であること、福島県の代表であることの自覚を持つことと同時に多くの同窓生や保護者の期待があること、寄付金を集めて走り回っている人がいること、あるいは頭を下げてくれている人がいること、東高校でサッカーがしたいと夢をもっている子供がいること、地域の方々から応援してくれていること等の陰の支えがあることに感謝し、その思いを背負いながら大会に臨みました。この経験は何ものにも変えがたい貴重なものでした。

本当にありがとうございました。

福島東高校サッカー一部監督 齊藤 勝

けで言っていた国立は「いけるかも」と本気で思った試合だった。

十二月三十一日、一回戦、対高松北戦。私の調整ミスだった。ピークが微妙にズレてしまっていた。選手は動くこととしても動けずDFもMFもさがりすぎてどうにもならない前半だった。御殿場までできていたことが選手に妙な勘違いももたらしていた。FWは無闇にボールにいかずに狙って出させようとしていたディフェンスが、DFもMFもさがりすぎたために機能しなくなっていた。ハーフタイムに修正したが、そんなことよりも選手の戦う姿勢に問題があった。久しぶりに気合を入れて送り出した。後半に僅かではあるが改善でき、萬代のゴールで辛勝した。それにし

ても勝負強いチームだなと思った。大晦日に試合に勝って夜を過ごすのは二年連続となった。なんともいえないいいものである。元旦は近くの神社にお参りに行き、その後軽く汗を流した。ちなみに萬代の引いたおみくじは凶だった。いやな予感。

一月二日 二回戦、対戦相手は選手権の常連丸岡高校である。一回戦を見るかぎりタフなチームである。開始直後は一回戦よりはまりましたがやはり動きは悪い。FKでうまく得点でき一対〇で前半を終えた。後半の立ちあがりには風上の影響もあってチャンスを作るが得点出来ない。セクターDFの怪我等の不運もあつたが、冷静に見るといつもものプレーができないのは力がないか

らだなと実感していた。結局は追いつかれ、またもPK戦で敗退する結果となった。

試合で負けて考えたことは、私たち指導者もつと頑張りななくてはならないということである。本番の試合ではいろんな意味で多くのプレッシャーと戦わなくてはならない。相手は自分達の良さを消して行くわけなのでゲームプランどおりにいかなくなるのがサッカーである。そんな時に確かな判断と正確なプレーそして戦う姿勢によって勝利をものに出来る真の強さが必要なのだと思う。戦略的な部分で一度成功しても進歩はない。

今年のチームは本大会では力を発揮出来なかったが、到達度からいって明らかに全国ベスト4を狙えるレベルまでいったと自信を持って言える。努力すればそこまでいけることが実証できなかつたことは悔しいが、また強いチームを作って頑張りたい。最後にいろいろと心援してくださつた皆様ありがとうございました。

平成十四年度大会に参加して

天野 太輔

当時のことはまだ鮮明に覚えている。ピッチに続く階段を登って行くとき、だんだんと大きくなっていく日本一の応援が僕たちを熱く迎えてくれた。

第一戦の夜は、思っていたほど緊張しなかつた。というよりはまだその時は実感がなかつたのだからその緊張が埼

玉で出てしまった。それが二点を先制されたことに大きく表れている。しかし、初戦突破は偶然ではなく必然だったと今も思う。後半は自分たちの色を出せたと思うし、負けるという思いは少しもなかつた。全ての試合でその想いは変わらなかつた。

試合の前後、勝先生は特別なことは言わず、「いつも通り」「次の試合は考えず、まず明日取るう」僕たちは、全ての試合でこの言葉を頭に置いて戦った。ほとんど無名で下馬評もそれほど良くなかつた僕たちがベスト8という快挙を為し遂げることが出来たのは、常にチャレンジャー精神を維持できたところにある。そして全国という大舞台が選手一人一人を大きく成長させたからだろう。あの全国という経験がみんなに大きな影響を与えたのは間違いないだろう。

僕は当時、もう一つ嬉しいことがあつた。それは高校一年のとき全国大会を見に行ったときの父との約束が果たされたことだ。僕は、ピッチの上で活躍する大久保選手を見て父に「絶対全国に連れてきてやるよ」と言った。それが叶つたことが最高に幸せだった。

今、そしてこれからの東高サッカー部の後輩たちに言いたい。決して全国は雲の上じゃない。一人一人がどれだけ上に行きたいと思つたかにかかっていると、思つて毎日の練習で向上心を持ってプレーし、東高サッカー部であることを誇りに思ってもらいたい。

もし、誰かに夢は？と聞かれたら「全国大会優勝です」と言えるようになってほしい。

平成十五年大会に参加して

サッカー部主将 柳原 圭

一回戦敗退。これが私たちに残された記録です。私たちがチームの目標や皆さんの描いた理想にしてみれば、期待はずれの成績だつたと思えます。しかしこの二試合を通して、多くの方々と共に笑い、泣き、そして福島東の名を叫べた記憶は、とてもよい思い出となりました。

思えば、この大会に向けているるな出来事がありました。直前の合宿。主力二人が食中毒。また、風邪がチーム内で流行し何人もの選手が熱を出し、大慌てしました。霧によりグラウンドでの練習ができなく、走りだけの調整の日もありました。その中でケガなく無事に大会を迎えられたのは、監督やコーチのアドバイス、トレーナーやマネージャーのケアのおかげであると共に、同窓会会員の皆様をはじめ多くの方々の援助により整えられた、良質な練習環境によるものであつたと思えます。

大会での成績は決して満足のいくものではありませんでしたが、多くの方々に支えられ、応援されたなかで全国に挑戦できた私たちは幸せだったと今となって心から思います。そして、皆様にはこれからの後輩達、そしてプロに挑戦している仲間に変わらぬ応援をお願いします。



# 転出・転入者

只見高等学校 栗原 孝明

私は、平成十三年四月より十六年三月までの三年間教頭として勤務しました。会津出身の私としては初めての県北で、それこそ西も東も解らない状態からのスタートでした。

赴任して、まず感じたのは部活動が非常に盛んな学校であることでした。夜七時半からの機械警備のために、校舎内の吹奏楽部員を追い出し、体育館の運動部員を追い出すのが毎日の仕事でした。今年も各部の活躍を聞くにつれさすが東高と思って

います。

学習面では、まじめな努力家が多く職員室にはいつも質問者が出入りし、教室にも遅くまで学習する姿が見られました。まさに文武両道の学校と思いました。ただ、理系が少ないのが残念でした。科学技術を学び将来の日本を支える人材がもっと東高から出てほしいと思います。

前期の年の公開文化祭も東高らしさが出ました。時間を決めて着々と準備を進め、非常に完成度の高い物を作り上げたのには驚きました。これも文武両道の成果だと思います。

学習も部活動も日々の鍛練の賜物だと思います。東高校の今後

ますますの発展を願っています。

安積黎明 井戸川方志

東高の良い所は、様々な事に頑張れるという点である。「文武両道」は東高の「合言葉」ではあるが、それとて、東高にとってはいつでも目標なのである。しかし、その実現を目指して生徒も教師も共に頑張るからすばらしいのだ。部活ばかりではない。行事に打ち込む姿勢も自負していることだ。そして東高の何よりも優れている点は、切り替えができるということだ。

定期考査前や三年の部活引退後の受験への切り替えとその集中力は誇っている。

しかしこれは大変なことだ。それこそ勉強に、部活に、行事に、「いつでも頑張りまくり」の状態を強いられる。が、その結果として手応えのある三年間を感じ取ることができののだと思う。卒業生が感じる東高への愛着というのは、他ならぬ自身の東高時代の思いに他ならない。そしてそれは生徒とともに歩んだ教員とて同じことである。

## 「忘れぬ思い出」

郡山萌世 八巻 淑子

平成六年四月、二年生だった男子校最後の一五期生との出会いが私にとって九年間の東高生活の始まりです。学生服に包ま

## 平成16年度 転出者

職名	氏名	教科	転出先
教頭	栗原孝明	理科	只見(校長)
教諭	矢部邦子	国語	退職
教諭	小杉浩策	国語	退職
教諭	菅野公晴	理科	退職
教諭	黒澤元省	体育	退職
司書	丹治みさ		退職
教諭	井戸川方志	地歴公民	安積黎明
教諭	八巻淑子	国語	郡山萌世
教諭	渡部光子	数学	保原一
教諭	山岸淳一	数学	仙台一中
教諭	伊藤泰史	数学	福島四中
教諭	本田伸良	英語	安達川
常勤講師	佐藤博之	英語	梁川
常勤講師	伊藤悠治	数学	喜多方工業
常勤講師	佐藤涼子	家庭	退職
常勤講師	齋藤こずえ	理科	退職
PTA事務	大関由美		退職

## 平成16年度 転入者

職名	氏名	教科	前勤務先
教頭	高橋朝晴	地歴	光南
教諭	梅宮康弘	国語	福島北
教諭	中村充幸	国語	湖南
教諭	今野充宏	地歴	安達
教諭	齋藤欣也	数学	福島北
教諭	高橋賢	数学	仙台一
教諭	関川博巳	体育	梁川
司書	木伏幸子		川俣
常勤講師	佐藤勝彦	理科	新任
常勤講師	佐々木真希子	体育	新任
常勤講師	力丸裕樹	英語	安達
常勤講師	若林明美	数学	新任
養護助教諭	柴崎華奈		新任
時間講師	岡崎政朝	理科	
時間講師	佐藤香織	音楽	
兼務講師	吉田孝夫	地歴公民	
兼務講師	大槻文彦	理科	
PTA事務	金田由利子		新任

れた黒ずくめの集団は、貴公子然とした外見の内側に一途な純情を秘めた若者たちでした。部活動と勉強に明け暮れる彼らは予想以上に生活経験が限られており、小説などに登場する様々な立場の人物像やその心情理解を苦手としていました。漢文の授業で杜甫の「石壕吏」という漢詩を扱った時、戦乱に翻弄される老いた農民が次々と息子を失い、老婆まで戦場に駆り出される悲嘆を、挫折の多かった杜甫の生涯と重ね合わせながら、ソシオドラマ(心理劇)に仕立ててみました。感想文に「恥ずかしかったけれど、役を演じることで登場人物の苦しみが分かったような気がする。」と、ある生徒が書いてくれたのをうれしく思い出します。

それから一年後、男女共学二年目の一七期生を担任しました。気負ったせいかクラスの緊張がなかなかほぐれなかつたため、五月の連休を利用して「四季の里」でレクリエーションを楽しんだ事が忘れられません。二年生では、長崎の修学旅行を文集に残すことが出来て、良い思い出になりました。三年生では、自立心の強い生徒たちのバイタリティー溢れる受験勉強ぶりに感心し、思い出深い三年間を過



ごすことができました。

平成十三年四月、二回目の担任として二期生をあくさるることになりました。この時は、私の妊娠流産と波乱続きで、入学早々生徒たちに大変不安な思いをさせてしまったことを申し訳なく思っています。しかし、この出来事で生徒の思いやりや優しさを実感し、それからの三年間で、より強い絆と信頼感を築けたような気がします。

私にとつて福島東高校生との出会いは、忘れえぬ生涯の思い出として心に刻まれ、大切な宝物となっています。

矢部 邦子

同窓生の皆様、お元気でいらっしゃいますか。私はこの三月、定年により三十八年間の教員生活に終止符を打ちました。最後の五年間を、東高で、十八期生から二十二期生までの皆様と、楽しく過ごすごすことができました。特に二十一期生の皆様からは担任として沢山の思い出をいただきました。

素直でやさしく、何事にも真摯に取り組む姿に接し、毎日が感動の連続でした。この若者たちは必ずや明るい未来を切り拓いてくれるだろう、どんな大人に成長するのだろうと、将来が

楽しみでした。私も歳を忘れて一生涯懸命働きましました。

すばらしい思い出と明日への希望と充実感を抱いて退職できましたこと、何よりの幸せと感謝しております。今は絵を描いたり、お茶を点てたりして静かな日々を送っています。

どうぞ 皆様、それぞれの道で精一杯、誠実にお励み下さい。ご健勝をお祈りしております。

梁川高等学校 佐藤 博之

東高での思い出は、放課後、生徒が居残り勉強をしている風景です。暗くなっても、なかなか帰路につかず、粘り強く勉強をする姿に驚かされました。また、卒業生の来校の多さに驚き、彼らの口から発せられる言葉の節々に愛校心が滲み出ていたのが印象的です。勉強に力を入れた環境の中で、多くの生徒が部活動を両立させ、上位の成績を収めているということは、志を高く持つて努力すれば、希望は叶うのだと、東高生に教えられた気がします。こうしたすばらしい校風をぜひ受け継いでいてほしいです。

丹治 みさ

東高の図書館で六年間、仕事を辞め

てしまった今、特別な思いで振り返る日々です。

四月の図書館オリエンテーション時の一年生の目の輝き、受験体制に入った三年生の真剣な眼差しで机に向かう姿、本を捜しに来た生徒の皆さんとの貸出カウンターの会話など、それぞれの場面が脳裏を過ぎります。

東高の図書館は、環境、資料の面でもよく整ったよい図書館だと思えます。そんな図書館を利用することにより、本好きな生徒がより多くなることを願うと共に、今後も皆さんの活躍を期待し、応援しております。

保原高等学校 渡部 光子

私は東高校が男女共学校になって二年目に赴任して十年目にあたる今年転出いたしました。男子高として必死に東高を立ち上げた先人が築いた堅固な土台の上に共学校として新たな東高の校風歴史を積み重ねていく大事なスタートの時期に勤務させていただきました。いただいたわけです。本当に微力ではありましたがこのような時期に関ることが出来た事は私にとつて幸せだったと思っております。星空を見上げて校門を出る多忙な日々でしたが、素直で直向な生徒を思う時疲れは充実感に変わっていた事を懐かし

く思い出します。二十周年行事、東校祭、部活等々勉強だけでなく多才で活力ある行動に共学校として着実に成長している事を感じ頼もしく思ったものです。担任した子供達はもちろん共に時を過ごした先生方生徒達に助けられ素晴らしい思い出を作る事ができた事に深く感謝いたしております。東高の今後の更なる輝きをお祈り申し上げます。

喜多方工業高等学校 伊藤 悠治

私は大学を卒業してすぐに東高校へ来て、最初は毎日が不安でした。教壇に立つのが初めてで、年齢に近いのに先生と生徒という関係で接するということ

が、私にとつてプレッシャーに感じ、授業前はいつも緊張していました。なんとか生徒に近づこうと、名前を覚えたり積極的に話しかけたりしましたが、逆に生徒の方から明るく笑顔で話しかけてくれました。それが大きな救いとなり徐々に自信をつけられました。強く印象に残っているのは、テスト前に多くの生徒と何時間も勉強したり、休み時間や放課後、まじめな話やどうでもいい話を永遠としたことです。

私の中で、東高校はこれからの教員生活のスタート地点であ

り、決して忘れることのできない学校です。お世話になった生方、その他の多くの方々、多くの生徒に対して本当に感謝しております。そして、これからも東高生のご活躍を陰ながら応援しています。

仙台第一高等学校 山岸 淳一

宮城県との人事交流で仙台第一高等学校に勤務することになりました。色々な場面でご紹介をするときに前任校の福島東は「萬代の出身校の」とつけることが多いです。地元ベガルタ仙台の選手でもあるのでほとんどの方は「そうなんですか」とわかってくれます。創立二十五年を迎えたばかりですが、全国区で活躍する同窓生がいることは、在校生でも卒業生でも「誇り」になり「励み」になり「自信」になっているはずで、今後、スポーツに限らず、全国や世界で活躍する同窓生が数多く現れることを楽しみにしています。



おめでとう！

# 三浦賢一先生

本校発展にご尽力なされた三浦賢一先生が平成十六年四月に瑞寶小綬章を受章されました。三浦先生は本校開設事務局員として、東高開設の準備にあたられたのち、教諭として二年間、また、平成三年度から第五代校長として三年間勤務され、東高の発展の礎を築かれました。毎年の成績優秀者に対しての「東櫛賞」は三浦先生によって設けられ、その副賞（「広辞苑」）は現在でも先生から贈られています。九月十二日(日)には、福島ヒューホテルにおいて、三浦先生の受章祝賀会が盛大に開催されました。数多くの出席者の方から、三浦先生の功績を讃える言葉がありました。また、出席者には記念品として、長田弘（校歌作詞者）著『深呼吸の必要』、『一會一生 教え子よりのメッセージ』が贈られました。

「東高は新しい学校です。この学校を作っていくのは君たちです。私たち教員と一緒に新しい伝統を築いていこうではありませんか。」これは三浦先生がある中学校で開かれた学校説明会で中学三年生に呼びかけた言

# 瑞寶小綬章受章

葉です。東高という素晴らしい学校をつくるのだという三浦先生の情熱にうたれて東高進学を決めた生徒も多くいました。東高創設の父ともいふべき三浦先生の瑞寶小綬章の受章は同窓会にとっても大変に光栄なことであります。最後になりますが、長年の三浦先生の功績に対して心より敬意を表させていただきます。

# 教育実習生

大槻 雪乃

今春、大学院に進学し強く感

## 平成16年度 教育実習生

氏名	実習教科	期生
大槻 雪乃	国語	18
佐藤 優子	国語	18
安齋 麻美	保体	19
遠藤 大輔	数学	19
尾形 恵美子	国語	19
大橋 善隆	理科	19
香野 満俊	英語	19
佐藤 諒	保体	19
佐藤 友香	地理	19
羽川 顕広	地理	19
宮田 康彬	数学	19
山口 卓也	英語	19
山田 大亮	地理歴史	19

じていたのは「今の自分の原点は東高ではないか」ということだった。それは、大学受験に失敗した私に短大からの編入学を薦めた恩師の存在もあるけれど、東高という学校全体が今の自分の基礎を作ってくれたと思うからだ。この二週間、生徒と変わらぬ厚いご指導を受け教育実習を終えることが出来た。きつと、先生方の熱意と生徒の向上心がびったり重なったとき、東高は一つの殻を破り新たな輝きを増すことになるのだと思う。

安齋 麻美

「福島東高校」自分の大好きな誇れる母校で教育実習が出来本当に幸せ者です。何にでも夢中に取り組む生徒の姿が凄く輝かしく見え、自分もその中で実

# 編集後記

習ってきて、少し輝けたような気がします。授業をするのは不安の連続でしたが、「先生頑張っ！」の一言が大きな支えとなりました。生徒と先生方、そして福島東高校に感謝の気持ちでいっぱいです。



まず初めに、今回この同窓会会報を創刊するにあたって、各種記事を寄せて頂いた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。事務局一同、無事この会報を発刊することができ、一安心しております。

福島東高が創設され早二十五年。第一期生は今年で四〇歳になるわけです。東高を卒業し、各種の第一線で活躍される皆様にとってはきつとこの二十五年は短かったように感じるのではないのでしょうか。

今、この編集後記を綴っている私の手元には「東高だより」の第一号があります。その第一面の写真には、「翔け二十一世紀に向って」とのタイトルと共に、桜・プレハブ小屋・ただの荒れ地が写っています。これが

楽しかった。授業への緊張感や、指導案に追われる毎日の中にも、自分なりの大きな充実感が沸き上がっていた。しかし、生徒の笑顔を見た時、疲れがふつとんだ。これが教職者のエネルギーの源であり、原点なのだと思う。東高でよかった。そう切実に感じた三週間だった。

佐藤 諒

私達、東高生のスタート地点でした。

時は流れ、二十一世紀を迎え男臭かった校舎には、女子の爽やかな風が舞い、グラウンドは整備され、今年新たな照明が設置されました。当時と変わらな

いのは風に舞う桜吹雪と浜田町に根づく東高魂だけです。

この東高魂を消さぬためにも、今後、この会報を通して、同窓生同士の繋がりが増えていけばいいな、と事務局では考えています。最後になりますが、事務局では、会報に対しての感想等、皆様からお便りを頂けることを心待ちにしております。

是非、氏名及び何期卒業かを明記の上、事務局までご連絡下さい。